

区分別科目	術後疼痛管理関連		時間数 (法定)	9 (8)
特定行為名	(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整			
担当指導者	福井 道彦（医師） 自閑 昌彦（医師） 川上 敦司（医師） 清水 優（医師）			
学ぶべき事項	(共通) 術後疼痛管理の基礎知識	1. 硬膜外麻酔に関する局所解剖 2. 硬膜外麻酔を要する主要疾患の病態生理 3. 硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 硬膜外麻酔の目的 5. 硬膜外麻酔の適応と禁忌 6. 硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）		
	(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	1. 硬膜外麻酔薬の選択と投与量 2. 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整の方法		
研修概要	(共通) 術後疼痛管理の基礎知識	術後疼痛管理の必要性やその特徴を理解し、硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整を実践できる看護師を養成する。		
	(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（疼痛の程度、嘔気や呼吸困難感の有無、血圧等）、術後経過（安静度の拡大等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、硬膜外カテーテルからの鎮痛剤の投与及び投与量の調整を行う（患者自己調節鎮痛法（PCA）を除く）。		
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整ができるようになる。 2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。			
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト			
	演習：ペーパーシミュレーションによるグループワークを評価表に基づいて評価			
	実習：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価			
	試験：eラーニング上で筆記試験を実施			
研修内訳	講義（7 時間）	視聴時間 45 分＋講義確認テスト 15 分		
	演習（1 時間）	視聴時間（イントロ）5 分＋グループワーク 45 分＋視聴時間（解説）10 分 ※eラーニング教材を活用して講義室で行う		
	実習	実習は指導者のもと、宇治徳洲会病院で行い、最低 5 症例経験する ※各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。		
	試験（1 時間）	科目修了試験（筆記試験）1 時間 (共通) 術後疼痛管理の基礎知識 0.5 時間 (A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整 0.5 時間		

授業計画							
科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学ぶべき事項		担当指導者	
術後疼痛 管理関連	第 1 回	講義	放送	(共 通) 術 後 疼 痛 管 理 の 基 礎 知 識	硬膜外麻酔の目的、適応と禁忌、局所解剖、主要疾患の病態生理	福井 道彦 自閑 昌彦 川上 敦司 清水 優	
	第 2 回				硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）(1)		
	第 3 回				硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント		
	第 4 回				硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）(2)		
	第 5 回				硬膜外麻酔薬の選択と投与量(1)		
	第 6 回				硬膜外麻酔薬の選択と投与量(2)		
	第 7 回				硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整の方法		
	第 8 回	演習	面接	(A) 硬膜外 カテーテルによ	ペーパーシミュレーション（硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投 与量の調整）		
		実習	面接	る鎮痛剤の投 与 及 び 投 与 量 の 調 整	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整（見学） ※患者に実技を行う前にモデル人形等を利用し、技術訓練を行う		
					硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整		
	第 9 回	試験	試験	科目修了試験（筆記試験）			

参考図書・資料等	全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード
備考	* e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う（祝祭日を除く）。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。 * 科目修了試験（筆記試験）は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。